

都道府県名	栃木県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	氏家町立氏家小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	4	4	4	3	1	23	37
児童数	130	114	133	134	140	117	2	770	

研究の概要

1. 研究主題

<p>基礎・基本の定着を図り，学ぶ喜びを味わわせる指導の工夫 ～算数科の指導を通して～</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>1年生から6年生・算数</p> <p>児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため 学校として、当該教科に関する研究実績があるため</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>1 テーマ 基礎・基本の定着を図り，学ぶ喜びを味わわせる指導の工夫 ～算数科の指導を通して～</p> <p>2 研究の見通し (1) 研究テーマの設定 (2) 学力観の共通理解 (3) 指導体制の工夫と時間割への位置づけ (4) 個に応じたわかる授業の研究と教材開発 (5) 指導に生かす評価の工夫</p> <p>3 研究の内容・方法 (1) 個に応じた指導及び個を生かす指導のための指導方法・指導体制の工夫・改善をする。 指導体制の工夫 ア 担当者 当該学年担任・少人数指導・教頭・教務主任・学習指導主任・指導助手 イ 時間割 当該学年教室の他，学習室1・2を使用するため，算数科の授業は学校全体で重複しないように計画した。 指導形態の工夫 ア ティームティーチング 複数の教師が関われる。・ 複数の場の設定が可能。 ・ 小グループ学習に対応しやすい。 ・ 児童が質問しやすい。 ・ 配慮児童への支援の充実 主体的・意欲的に学び続ける態度や能力を育てる。</p>
--------	--

- イ 少人数指導
学級集団を少人数で編成し，一人一人へのきめ細かな指導の充実を図る。
回答に対しての評価を適時実施する。
個別指導の機会が増える。
- ウ 習熟度別指導
個々の学習到達度や学習進度などの実態にあった指導ができる。
クラス編成は，児童の希望制と実施した問題による結果選択制を取る。
- 指導形態の実際
- ア 学年ごとの指導形態
1年 学級チームティーチング
2・3年 学級，少人数指導，それらにチームティーチングを加える。
少人数指導 ----- クラス数 + 2 クラス
4・5・6年 学級，習熟度別指導，それらにチームティーチングを加える。
習熟度別指導 ----- クラス数 + 2 クラス
- イ 領域による指導形態

	学級 T・T	少人数，習熟度別	理由
数と計算			個々の計算力の向上をめざす 基礎・基本の定着を図る
量と測定			基礎・基本の定着を図る
図形			個別化の充実を図る 多様な考えに触れる
数量関係			多様な考えに触れる

指導内容に応じて，指導形態を考え，計画する。

効果的なコース設定の工夫

単元レベル・授業レベルで実施

- ・ 学級 T・T
- ・ 少人数，習熟度別クラスで実施
- ・ 学級 T・T 確認テスト 少人数・習熟度別
- ・ 学級 T・T 少人数・習熟度別 学級 T・T
- ・ レディネステスト 少人数・習熟度別

発展的・補充的な学習におけるわかる授業の工夫

習熟度別学習を行う際に、基礎・基本、一般、発展の3コースに分ける。

ア 習熟度別クラスの基本的な考え方

基礎・基本

- ・ 基本となる問題をみんなで解決し、解き方を理解させる。
- ・ 学習児童要領の内容を繰り返し学習したり、前学年の内容に戻ったりして学習していく。
- ・ 練習問題は個別指導を心がけ、基礎・基本の内容を定着させていく。

一般

- ・ 互いに学び合いながら授業を進め、学習指導要領の内容を定着させていく。

発展

- ・ 学習指導要領の内容を定着させ、それをもとに発展問題や思考力を高める場面の設定等，知的好奇心がもてるような指導を心がける。

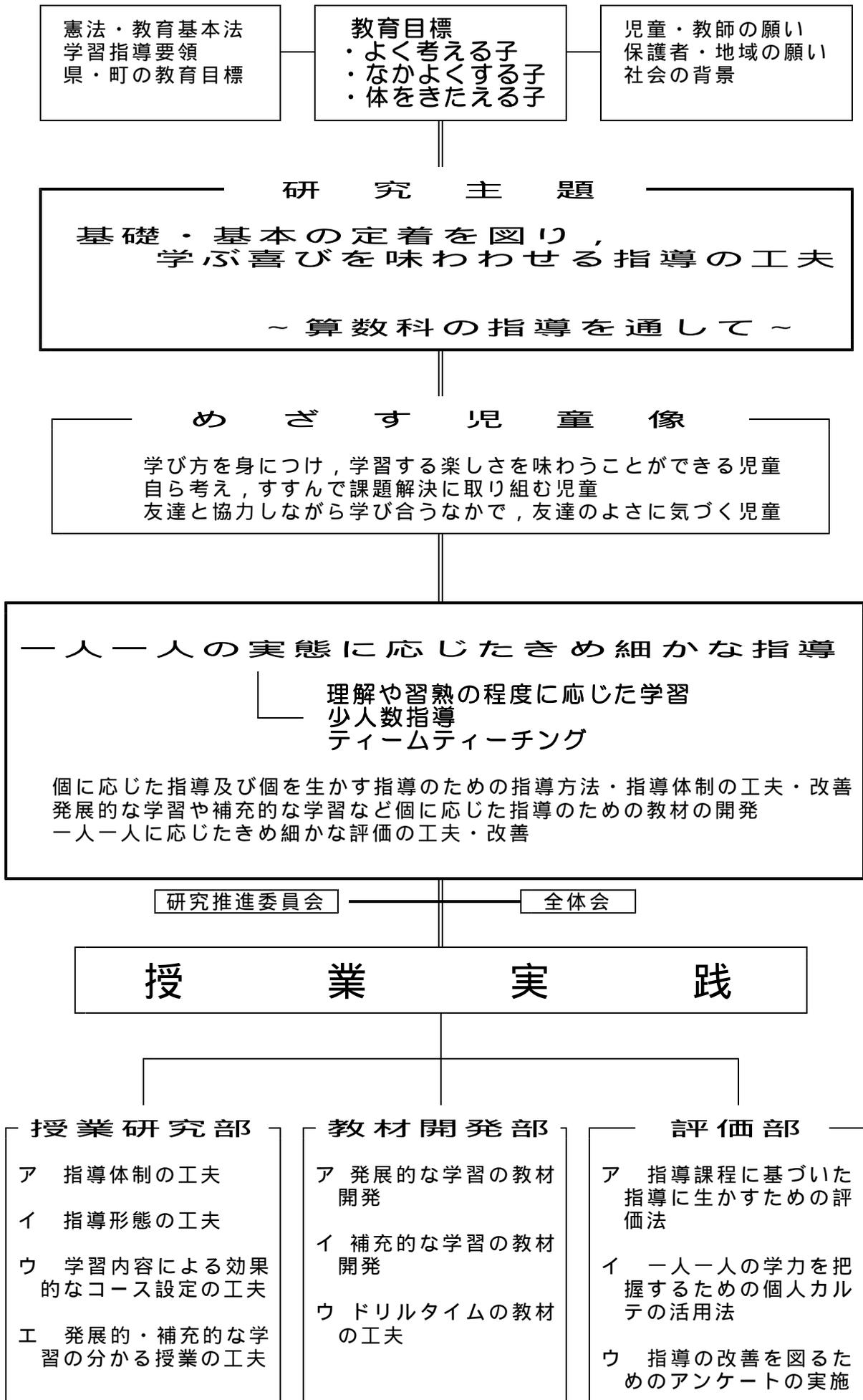
イ 指導計画の工夫

基礎・発展クラスにおいて，それぞれ「ねらいへの迫り方」を明確にして，習熟の程度にあった学習活動が進められるようにする。

	<p>(2) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発を行う。</p> <p>発展的な学習の教材の工夫 補充的な学習の教材の工夫 ドリルタイムの教材の工夫</p> <p>(3) 一人一人に応じたきめ細かな評価の工夫・改善をする。</p> <p>指導過程に応じた指導に生かすための評価法 評価規準の見直しと評価補助簿の活用 ふり返しカードの活用 一人一人の学力を把握するための個人カルテの活用法 指導の改善を図るためのアンケートの実施</p>
--	---

平成 16 年 度	<p>テーマ 基礎・基本の定着を図り，学ぶ喜びを味わわせる指導の工夫 ～算数科の指導を通して～</p> <p>研究の見通し 研究の基本構想の見直し 児童の実態にあった習熟度別クラス選択の工夫 それぞれの習熟度別クラスにおける教材開発と指導法の工夫 指導に生かす評価方法の見直しと改善</p> <p>研究の内容・方法 (1) 個に応じた指導及び個を生かす指導のための指導方法・指導体制の工夫・改善をする。 (2) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発を行う。 (3) 一人一人に応じたきめ細かな評価の工夫・改善をする。</p> <p>上記の内容についてそれぞれ研究部を設け，授業研究を中心に進める。</p>
--------------------	--

(3) 研究推進体制
全体構想図



憲法・教育基本法
学習指導要領
県・町の教育目標

教育目標
・よく考える子
・なかよくする子
・体をきたえる子

児童・教師の願い
保護者・地域の願い
社会の背景

研究主題
基礎・基本の定着を図り、
学ぶ喜びを味わわせる指導の工夫
～算数科の指導を通して～

めざす児童像
学び方を身につけ、学習する楽しさを味わうことができる児童
自ら考え、すすんで課題解決に取り組む児童
友達と協力しながら学び合うなかで、友達のよさに気づく児童

一人一人の実態に応じたきめ細かな指導
理解や習熟の程度に応じた学習
少人数指導
チームティーチング
個に応じた指導及び個を生かす指導のための指導方法・指導体制の工夫・改善
発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発
一人一人に応じたきめ細かな評価の工夫・改善

研究推進委員会

全体会

授業実践

授業研究部
ア 指導体制の工夫
イ 指導形態の工夫
ウ 学習内容による効果的なコース設定の工夫
エ 発展的・補充的な学習の分かる授業の工夫

教材開発部
ア 発展的な学習の教材開発
イ 補充的な学習の教材開発
ウ ドリルタイムの教材の工夫

評価部
ア 指導課程に基づいた指導に生かすための評価法
イ 一人一人の学力を把握するための個人カルテの活用法
ウ 指導の改善を図るためのアンケートの実施

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

T・Tや少人数指導・習熟度別指導など個に応じた指導を実施したことにより、児童の学習意欲に高まりが見られ、算数の時間を楽しんでいる児童が増えた。

担任以外の複数の指導者の目で児童を見る機会が増えたことにより、それぞれの児童の良さをより多く発見することができるようになった。

児童の学習の様子が把握しやすくなり、疑問や質問に対応しやすくなったため、個に応じた支援がより可能になった。

単元に入る前に担当者が指導法を話し合ったり、評価について共通理解を図ったりしたことにより、指導法の研究が進み、より客観的な評価が可能になりつつある。

習熟度別コースにおいて、それぞれ指導計画やねらいへの迫り方を検討することで、児童の実態にあった指導が可能となった。

習熟の程度に応じた教材を工夫・開発し、児童の理解を確かにしようと試みた結果、基礎・基本の定着が図られ、興味・関心や意欲の向上が見られた。

評価補助簿をもとに評価の観点を共通理解したり、ふり返しカードや個人カルテなどを用いたりすることで、よりきめ細かな評価が実施できた。

児童・保護者へのアンケートを実施することで、個に応じた指導の効果や児童の意欲等について客観的に把握できた。また、その結果をその後の指導に役立てられた。

2. 今後の課題

児童が意欲的に取り組み、学習内容の理解がより深まる教材の工夫と開発がもとめられる。教材研究の時間の確保が必要である。

習熟度別学習とT・Tによる一斉指導をどの単元で、またはどんな学習内容で実施したらよいか、より有効な場面での活用を図りたい。

発展的なクラスにおいて、学習内容をさらに広めたり深めたりするとともに、思考力を高め、知的好奇心を喚起するような教材の開発の工夫をさらに進めたい。

基礎クラスの学習においても、意見を発表し合うなど児童同士の学び合いがみられる教材の開発や指導過程を工夫する。

単元の指導に入る前の担当者の話し合いの時間をとるのが難しい。習熟の程度にあった指導や、評価が適切に実施できるよう、この時間の確保に努めたい。

教師の指導力を高めるための校内体制の整備が求められる。お互いに授業を見合って意見交換できるようにしたい。

少人数指導や習熟度別学習を進める上での指導方針を明確にし、その利点が児童の力を伸ばすためにいっそう生かせるよう配慮する。

学力等把握のための学校としての取組

1 アンケートの実施

- (1) 目的 指導の改善を図るため
- (2) 実施内容 保護者：習熟度別学習に対する考え
児童：習熟度別学習を受けての感想 等
- (3) 時期 7月と2月の 年2回

2 学力テストの実施

- (1) 目的 児童の学力の把握と分析
- (2) 実施内容 国語・算数 1・2・3・4年
国語・社会・算数・理科 5・6年
- (3) 実施時期 2月

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1	公開研究発表会 (予定)	日時 平成16年10月29日(金) 場所 校内 対象 地区内小中学校教職員 目的 研究成果の普及
2	フロンティアティーチャーにおける成果の普及 年に2回(5月・2月),地区内の小中学校の学習指導主任に対して研 究の概要と成果・課題について説明を行う。	

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7~12学級
 13~18学級 19~24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無